Nishibeppu National Hospital

にしべっぷ

2024-3号
令和６年11月

発行所　独立行政法人 国立病院機構　西別府病院
住　所　〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地
TEL 0977-24-1221（代表）
FAX 0977-26-1163（代表）0977-76-7231（連携室）
ホームページアドレス http(s)://nishibeppu.hosp.go.jp

ヒーリングパークにて

目　次

院長就任の挨拶
尊敬、将来そしてスピード感を大切にし、
皆さんの野心を応援します …… 2

院長退任の挨拶
院長退任にあたってのご挨拶 …… 3
永年勤続表彰 …… 5
院外研修 …… 8

理　　念　私たちは、常に研鑽し、患者さんのために最良の医療を提供します

基 本 方 針　1.患者中心の医療　2.患者の権利と尊厳を守る　3.政策医療の推進　4.地域医療への貢献
5.最良･安全医療の提供　6.チーム医療の推進　7.経営基盤の確立

患者さんの権利　1.良質で安全な医療を公平に受ける権利　2.十分な説明を受け、質問する権利
3.自分で医療の内容を決定する権利　4.プライバシーを保護される権利
5.カルテ開示を受ける権利　6.セカンドオピニオンを受ける権利　7.臨床研究への参加と拒否の権利

院長就任の挨拶

尊敬、将来そして スピード感を大切にし、 皆さんの野心を応援します

院長
末 延 聡 一

本冊子をお取りいただいた皆様、ありがとうございます。私は令和６年10月１日に西別府病院の院長に就任いたしました末延聡一（すえのぶそういち）です。歴史ある西別府病院がさらに発展し、今ここで勤務している皆さん、そして次世代の若手がさらに素晴らしい未来を築くことを夢見て楽しく働くことが出来れば良いと考えています。

私たちは「ここで働きたい病院」を目指しています。そのための具体的な方向性として、私は院長就任当日の職員向け挨拶で「三つのＳ」を大事にすることを提案しました。

一つ目のSは「尊敬」です。患者さんや同僚に対して尊敬の念を持つことは、医療従事者としての基本です。当院には、原因不明や治療法が未確立の病に対して真摯に向き合う患者さんが多く、その姿勢に私たちも日々学び、元気を頂いています。西別府病院は医師や看護師をはじめ多くの学生さんが研修に来ていますが、学生の皆さんからは「患者さんとの交流が一番心に残っています」という声が多数寄せられており、西別府病院には命の尊さや医療の本質を学べる環境が整っています。そして人間的にも成長するためには絶好の職場であり、そのためにこの「尊敬」を文化として定着することが「ここで働きたい病院」の基盤と考えます。

二つ目のＳは「将来」です。医療や福祉は常に進歩しており、かつては診断・治療法の無かった分野も新たな診断方法や治療法が開発されており、当院でも重症心身障害児・者、神経難病、感染症分野の最前線で新たな診療や研究に取り組んでいます。私たちの西別府病院はこれまで多くの患者さんを支えてきた実績がありますが、さらに勉強して未来の医療に貢献出来る場を提供出来ればと考えています。若い皆さんが医療の最先端に携わり、また成長し続けられる職場を提供したいです。

三つ目のＳは「スピード」です。医療や福祉の現場では、迅速な判断と行動が求められます。私たちは患者さんが発するサインに迅速に気づきスピード感を持って対応していくことで患者さんの日々の生活を守り続けます。また職員一人ひとりが意欲的に提案してチャレンジ出来る環境を大切にしていますが、全職員が自身のアイデアを形にし、日々の業務に活かせる風土を作ることを支持します。Be ambitious.で有名な札幌農学校のクラーク博士は実勤務期間９か月で日本に大きな足跡を残しています。私たちも半年で結果を出せることがたくさんあると思います。

最後に、その「野心：Ambitious」を持つ皆さんを全力で応援します。西別府病院は、先に述べたように積極的な提案やチャレンジを尊重し、全員が意見を出し合い協力出来る職場環境を大切にしています。皆さんが「働きたい」と感じ、夢に向かって羽ばたけるよう、共に成長出来る場を提供していきたいと考えています。若手の皆さん、Be ambitious. 西別府病院であなたの力を発揮し、充実したキャリアを築きましょう。中堅も壮年も、また還暦近くの私も含めて全員で大志を抱いて進みましょう。

末筆となりましたが、本文章をお読みくださった皆さんのご健勝とご発展を祈念いたします。

院長退任の挨拶

院長退任にあたってのご挨拶

後　藤　一　也

院長退任にあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

9年半の在任期間、ご理解、ご協力頂きました関係機関の皆様に心より感謝申し上げます。支えて頂いた職員の皆様にも心より御礼申し上げます。出来るならば、病院が抱える諸課題を解決して、退任を迎えたかったのですが叶いませんでした。多くの課題を残してしまったことを、後任の末延先生はじめ職員の皆様に大変申し訳なく思っています。

より良い医療、福祉サービスの提供には経営基盤を確立することが何よりです。しかし、院長就任後、黒字、赤字の繰り返しでしたが、収支状況は年々厳しくなってきました。その中で、結核病棟の再編はある程度形に残せたと考えています。

大分県に対する結核病棟の運営に関わる諸課題を説明することから始まり、大分県、大分大学と連携した結核医療体制強化事業、結核診療支援センター開設を経て、12床の結核病床運用などにつながりました。相談や協議させて頂いた大分県感染症対策課、大分大学呼吸器感染症講座、大分県医師会、関係医療機関、国立病院機構本部と九州グループの皆様方のお陰です。深謝申し上げます。職員の皆様にも感謝申し上げます。事務部長や九州グループ総括長などと共に臨んだ県庁でのやりとりが懐かしく思い出されます。一方で、医師などの転出による診療科の縮小は、診療サービスのみならず、職員のモチベーション低下などにつながったことが、残念な出来事でした。退任直前の7月末に個別指導がありましたが、前回の指導を受けての取り組みが中途半端になってしまったことも悔やまれることでした。ただ、通知を受けて、職員が力をあわせて出来るだけのことに取り組み、指導に臨んだことは有り難いことでした。

自然災害、感染症などへの対応も時間を割きました。平成28年の熊本地震、建物被害は広範囲に及びましたが、幸いにライフラインへの影響はごくわずかにとどまりました。余震とはいえ、相当な揺れの中、業務に励む職員に頭の下がる思いをしたことを昨日のように思い出されます。今後、予測される南海トラフ大地震では、更なる備えが求められています。また、令和2年からは、新型コロナウイルス感染症の対応に追われました。濃厚接触者の受け入れ、ワクチン接種、擬似者、有床症状者の検査、職員の就業制限、病棟クラスター、物品調達、薬剤の準備など、費やした時間、労力は今までもこれからも経験することがないもので、全職員が力を合わせたからこそ乗り越えてこられたと思います。

当院は、医療とともに障害福祉サービスを提供しています。医師、看護師、リハビリテーションスタッフなどの医療職、福祉職、事務職員など、現場で職員の皆様が真摯に患者さん、利用者に向き合っています。サービス向上には情報共有や連携が必要で、病床運用検討会、療養介護事業運営委員会、生活支援検討チームなどを立ち上げました。虐待防止への対応も、求められるレベルが大きく変わっています。行政への虐待通報は逡巡もありました。職員への通知などに比重をおいておりました。考えてみれば、交通安全も、標語や呼びかけで規則が遵守されません。通報、外部審査、指導の流れは当然のことかも知れません。流れに沿って風土を変えることの重要性を認識しました。更なる改善につながると信じています。

医療や福祉サービスの質向上において、現場からの提案、取り組みが成果につながりやすいと思います。それを、病院がサポートして組織、環境作りを行う。そのモデルとなるのが、特定行為研修やALS外来です。成功事案となることを期待しています。

私は、平成13年に当院に赴任して以来、医療や福祉サービスに直接接してきました。この経験は、病院管理を司

るうえで長所となりました。一方で、今、振り返り、病院をどれだけ客観的に捉えることができたかというと心許ないものも感じます。国立病院機構においては、セーフティネット医療は大きな柱ですが、医療全体、地域医療という点では、特殊な分野で、こちらが思っているほど周囲から理解されていないかも知れません。どう当院をPRしていくか、取り組みを見直す点もあるようです。末延先生が強調する、臨床研究に力を入れること、規則などの曖昧さの払拭など欠けていた視点だと気付かされました。当院は、地域になくてはならない病院と自負しておりますが、自他共にさらに認識が広まり、深まることを願って止みません。

写真２

写真３

私の印象に残る、そして、職員の皆様にお伝えしたい写真を示します。写真1は、旧重症心身障害病棟の病室、いわゆる大部屋の10床室です。患者家族の方々は、大部屋だと交流しやすく良かったと言われる方が今でも少なくありません。ただ以前は、多くの患者さんがプレイルームで一緒に食事をとっていたように、医療度が現在と全く異なります。倫理的にも、感染対策面でも現状にそぐわないものです。写真２は、完成した東病棟に患者さんが移

写真１

動し、部屋に明かりが初めて灯った日のものです。立て替えにあたり、遠くは、富山病院、医王病院を訪問し参考にさせて頂いたことを含めて、多くの職員と、病棟の構造、設備面など検討したことを思い出します。使用を始めてしばらくは、廊下や部屋などにストレッチャーに傷が付くことに眉をひそめたものです。写真３は、境川対岸からみた桜が咲き誇る西別府病院です。桜に多くの患者さん、職員が心和ませられました。年度の分かれ目、別れと出会いに文字通り花を添えた風景です。今年もきれいな花を咲かせてくれましたが、若葉の頃、桜に近づいてみると、枯れている木や幹も少なくなく、老齢化が進んでいることに気づかされました。中には太いカズラが絡まる桜もあり（写真４）、早く気づいてあげるべきだったと申し訳ない思いでいっぱいとなりました。

中病棟や外来棟は、建築して50年以上が経ち、老朽化も進み、大雨の度に水漏れする状況で、修繕費をみてため息をつくこともしばしばでした。しかし、長年、病院や職員を支え、そして、当分は使用し続けることになります。東病棟や桜とともに、感謝とともに、「ケア」「メンテナンス」が必要なことを、一人でも多くの職員にわかってもらいたいと思います。

最後になりますが、西別府病院が地域にとって必要な病院であり続け、発展していくことを祈念します。

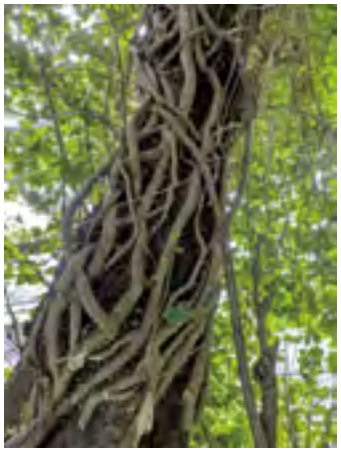


写真４

永年勤続表彰

30 年

企画課　岡部　達枝

この度は、30年の永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
30年の間に、色々な病院、色々な部署で働いてきましたが、なんとかここまで続けていられるのも、ひとえに今まで携わって頂いた皆様のおかげです。これからもご指導・ご鞭撻頂きますよう、よろしくお願い致します。

看護部　後藤　道子

この度は、30年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
昭和62年に当院附属の看護学校を卒業し、７年間賃金看護師として働いた後、機構職員となり30年が経ちました。時代の流れにより変わりゆく西別府病院を思い返すと、感慨深いものがあります。
スタッフの方々に支えられ、多くのことを学び仕事を続けることが出来ましたことに、心より感謝致します。定年まで今後ともよろしくお願いします。

看護部　長瀬　文代

この度は、30年永年勤続表彰を頂きありがとうございました。国立療養所宮崎東病院に10年奉職し、当院では20数年が経ちました。その間いろいろな経験を積むことが出来ました。
体調を崩してご迷惑をおかけしたこともありましたが、スタッフの方々に支えて頂き、看護師としての仕事を続けていくことが出来ました。定年まで体調管理に注意して、皆様の迷惑にはならないよう日々努めていきます。
今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

療育指導室　森本　明美

この度は、30年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
当院に採用となり、保育士としての30年はあっという間でした。子育てしながら仕事を続けてこられたのは、家族の協力はもちろん職場の皆様の支えや学びがあったからです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も体調管理を行い、利用者さんやご家族、一緒に働く職員が心穏やかに過ごすことが出来るよう努めていきたいと思います。よろしくお願いします。

20 年

看護部　**小野　直美**

この度は、20年永年勤続表彰を頂きありがとうございました。
看護師となり、20年も経つことに自分自身が驚きますが、多くの方に支えていただいたからこそ、続けることが出来たと思っています。
認定看護師、特定看護師などのスキルアップへのサポートもして頂き、感謝しています。これからも患者さんやご家族、病院職員の皆さんに貢献出来るように努めていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

看護部　**久津摩 和美**

このたびは20年永年勤続表彰を頂きありがとうございました。
2004年に入職して以来、いろんな部署で多くの患者さん、スタッフに出会い多くのことを学ばせて頂きました。学生時代より思い出深い当院で永く勤務出来たのは周囲のサポートのおかげであったと思います。
今後も私らしい看護を探しながら日々精進していこうと思っております。まだまだ未熟な私です。今後ともよろしくお願い致します。

看護部　**進司　絵美**

この度は、20年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
新卒で当院に入職し、院内の全ての部署を経験したのではないかと思うほど様々な部署で勤務し、多くのことを学び、多くのスタッフ・患者さんに出会うことが出来ました。ここまで勤めることが出来たのは、みなさまの支えがあったからだと思います。
これからもみなさまのお役に立てるよう、日々努力していきたいと思います。今後ともご指導をよろしくお願いします。

看護部　**千手　淳子**

この度は、20年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
この表彰は私にとって大変光栄であり、これまで支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。入職以来、多くの方々と出会い、多くのことを学び、様々な経験をさせて頂きました。
これからも感謝の気持ちを忘れず、自分らしさを大切にしながら、健康を第一に考え、日々精進してまいります。
今後ともよろしくお願い致します。

看護部　**高瀬　由香**

この度は、20年勤続表彰を頂きありがとうございます。
長く勤めた施設から異動し、当院での勤務は４年目です。異動当初は不安でしたが、たくさんの方のご支援、家族の協力があってこそ続けてこられたと感謝しています。
働きやすい職場であることが、患者さんやご家族の笑顔に繋がると思っています。そのために自身がすべきことを着実に行い、選ばれる病院となるために微力ながら尽力しますので、今後ともよろしくお願い致します。

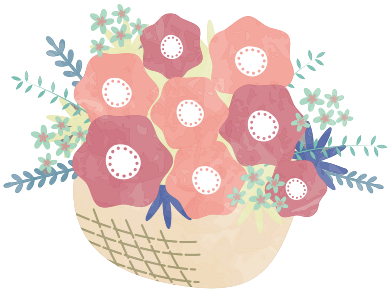
看護部　**塚本　歩美**

この度は、20年勤続表彰を頂きありがとうございます。
20年前看護学校を卒業し、国立西別府病院に入職しました。看護師として働き始めあっという間で、20年も経つのかと実感がなく驚いています。
振り返れば、スタッフの方々に支えられ、多くのことを学び、看護師として仕事を続けることが出来ています。この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

20 年

看護部　**土屋　悟**

この度は20年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
20数年前、看護学校を卒業し看護師として働き始め、あっという間の20年でした。その間スタッフの方々に支えられ、多くのことを学び、看護師として仕事を続けることが出来ましたことに心より感謝致します。
あと定年まで10年程ありますが、体調管理を行い日々努めていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



看護部　**卜部　美代**

この度は、20年勤続表彰を頂きありがとうございます。
20年前に長崎病院に入職しました。その後昇任する機会を頂き、西別府病院勤務となりました。今まで仕事を続けて来られたのは、家族の協力、先輩看護師や他職種から多くのことを学ばせてもらい、辛いときは患者の笑顔を見て前向きになる力をもらい支えてもらいました。
微力ですが患者の療養環境の調整に努めたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

看護部　**藤原 ゆかり**

この度は、20年永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
関東から地元に戻って20年余りが経過し、大分県の機構病院３施設を全て経験させて頂きました。たくさんの方々からご支援頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。
これからも日々努力しながら仕事を続けていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

看護部　**野仲　亜紀**

この度は、永年勤続表彰を頂きありがとうございます。
20数年前に西別府病院に入職し、あっという間の20年でした。
その間、多くの先輩方から刺激を受け、多くの事を学びました。
仕事で悩み、子育てで悩み、それでも続けてこれたのは職場の皆様の支えがあったからだと思います。
今後も体調管理を行いながら仕事をしていけるよう日々努めていきます。
今後ともご指導のほどよろしくお願いします。

看護部　**裏　雅明**

永年勤続表彰を頂き、ありがとうございます。
20年という月日があっという間と感じると同時に振り返ってみると、様々な出来事を経験したなと、感慨深い思いです。20年前、精神科に勤務しておりましたが、友人の勧めで西別府病院に就職することが出来ました。
当時は当病院の特徴とのギャップに戸惑いを感じていましたが、今は、まだ戸惑いながらもやりがいを感じています。
後10数年、体が動いてくれるか心配ですが、老体?（自分では若いつもりです）にムチ打って頑張ろうと思います。今後ともよろしくお願いします。

院外研修

参加して

栄養管理室　壱　岐　明　香

スポーツ公園宿泊研修センター、希感舎で院外研修に参加しました。

研修の目的は２つあり、心身のリフレッシュを図ること。他職種の役割・内容を知るなどのコミュニケーションを図り、チームワークの基盤を作ることでした。

研修内容はストレスマネジメントの講義、BBQ、チームワークが必要なゲームでした。

研修を終えて学んだことは２つあります。

１つ目はストレスコントロールについてです。ストレスとうまく付き合うため、心の拠り所であるサポートを増やすことが必要です。

これは人物に限らず、アイドルや神仏など、物や概念も指すため、世に存在する様々なものがサポートの役割を担っていると考える必要があります。気分の切り替えをうまく行い、物事を多角的に見られるように努力していきたいです。

2つ目は他職種との会話の大切さです。同期と話すことで他部署の業務内容などを知ることができました。他職種のことを知っておくことは業務中のやりとりを円滑に行うために必要なことです。この経験から、他部署のことで知りたいことがある場合は同期に聞いてみるなど、同期を頼るということも時には必要であると考えることができました。

ストレスとうまく向き合い、他部署とコミュニケーションや情報共有を行うことで学びを今後の業務に活かそうと思います。

参加して

看護部 東２病棟　麻　生　由　花

普段の職場環境とは違う場所での今回の研修は心身のリフレッシュをすることができ、自分自身と向き合う良い機会となりました。

ストレスマネジメントの講義の中で、自分をサポートしてくれているものは何か、枠いっぱいに書き出しました。私は常にプライベートのことで頭がいっぱいで、家族以外のサポート資源としては、旅･本･カメラ･サーフィン･サイクリングなど沢山あります。しかし入職して６ヶ月間、この期間は職場内でも多くのサポートを受けていることに今回の研修で気付くことができました。

半年前は病棟での業務はまだわからないことが多くありましたが、先輩方のおかげで少しずつできることも増えてきました。小さなことでもできるようになったことをいつも見てくださっており、それを言葉にして褒めてくださることが、「よし！明日からも頑張ろう！」という気持ちの支えになっています。そして、今回の研修のような場で悩みを共有し、共に成長していく仲間の存在はとても大きく、自分を鼓舞して頑張ることができています。

日々の業務に精一杯になる時もありますが、私たちがケアさせていただいている患者様もご家族にとって大切な存在であることを忘れないようにしたいです。

まだまだスタートしたばかりですが、こんなにも恵まれた環境で仕事ができていることに感謝し、これからも成長意欲を持ち続け、自分の強みを活かしながら楽しく働いていけたらいいなと思います。

企画して　看護部 東５病棟　播磨奈津美

今回の研修は、「職場から離れた環境で研修を行うことにより心身のリフレッシュを図ること」、また「他職種との親睦を図ることで他の職種の役割や仕事内容を知り、コミュニケーションを図ることでチームワークの基盤作りとすること」を目的とする研修でした。そのため、研修が「楽しい！」と思ってもらえるような内容であるように考え企画しました。

研修生たちは4月からの半年間、新社会人として、また職業人として常に求められることに応えようと努力し、張り詰めていると考えていました。その為、いつもとは違う開放的な雰囲気の中で、同じ境遇にある同期職員との交流を行える今回の研修は、これまでの張り詰めていた気持ちを話す場でもあり、リラックスできる場でもあったのではないかと思います。研修生からも「とても楽しかった。」、「またしてほしい。」と笑顔で話す様子がうかがえました。また他の職員からも「こんな研修を私たちの研修でもしてほしい。」との発言もありました。新採用者だけでなく、他のスタッフも常に張り詰めた状態で仕事をしていることは同じです。同期で集まり交流できるような機会を病院全体で作ることで、心身のリフレッシュにもなり、その後の良好な関係構築にも役立つのではないかと思いました。自分自身も研修生たちが楽しめるような研修を企画できるように今後も頑張っていきたいです！